

海外事務所
だより

ニューヨーク 公立図書館の魅力

ニューヨーク事務所所長補佐 久保 聖子（北九州市派遣）

ニューヨーク
事務所

はじめに

ニューヨーク公立図書館は、ニューヨーク州政府やニューヨーク市の一機関ではなく、独立した民営の非営利組織として設立され、理事会によって運営されています。マンハッタンにある四つのリサーチ・ライブラリーと、マンハッタン、ブロンクス、スタテン・アイランドの三地区合わせて八五の地域にあるブランド・ライブラリーによって構成されています。

四つのリサーチ・ライブラリーは以下のとおりです。

- ・人文社会科学図書館 Humanities and Social Sciences Library
- ・ニューヨーク公立舞台映像芸術専門図書館 New York Public Library for the Performing Arts

・シヨンバーグ黒人文化研究センター Schomburg Center for Research in Black Culture

・科学産業ビジネス図書館

Science, Industry, and Business Library

財源は、リサーチ・ライブラリーについては約八〇％が寄付、贈与等、約二〇％が連邦・州政府や市からの助成金等によるものです。ブランド・ライブラリーについては、その財源の割合が逆転し、連邦・州政府、市からの助成金が八〇％を超えています。

ニューヨーク公立図書館「General Fact Sheet 2006」によると、スタッフは約三二〇〇人（一）、コレクションは書籍、地図、原稿、録音、楽譜、ポスターなどを含めた約五〇六〇万アイテム、年間来館者数は約三二六〇万人と



↑ニューヨーク公立図書館
人文社会科学図書館

なっています。これに加えてウェブ上のバーチャル・ライブラリーの利用者は約四五〇万人です。

ここでは、代表的な二つのリサーチ・ライブラリーについて触れたいと思います。

四丁目の「忍耐」と「不屈」

高層ビルが立ち並ぶマンハッタン五番街に蔵書を守護するかのよう沈黙考する二頭のライオンは「Patience（忍耐）」と「Fortitude（不屈）」と呼ばれています。このライオンはニューヨーク公立図書館のシンボルとなっていて、街中でもこのライオンのマークの旗が翻っているところが分館だとすぐに分かりますし、会員カードなどにもちらん使われています。そのライオンの後ろには、ボザール様式の傑作と高い評価のある壮麗な図書館が四〇〇四丁目の二ブロック

を占めています。古くは「ティファニーで朝食を」をはじめ、「デイ・アフター・トゥモロー」など数多くのハリウッド映画にもよく登場しているのが「存じの方も多いでしょう」。

壁画や天井画など荘厳な館内、広大な読書室、さまざまなコレクションが部門ごとに分かれています。各部屋には寄付者の名前が刻まれ、服飾デザイナーのビル・ブラスの部屋も見られます。

図書館といえば、読書とリラクセスの場であることはもちろんですが、この図書館の大きな魅力の一つは展示です。常時、複数の展示が開催されていますが、二〇〇六年二月二〇日から二〇〇七年二月四日まで、『絵本』の展示が開催され、日本でも見たことがないような貴重な作品を楽しむことができました。

ニューヨーク生まれのスパイダーマンのシリーズ第二作公開に合わせて(シリーズ第一作にこの図書館がでてくるようです)『*Was in the Neighborhood*』というタイトルで、スパイダーマン・ウィークの一環として展示が行われていたのも、ニューヨークらしい展示だと思えます。

図書館では膨大なコレクションを誇る一方で、増大し続けるコレクションの保管場所の確保が悩みの種です。一〇〇年以上の歴史を持つ建物に手を加えることはできず、隣のブライアント・パークの下に広がる書庫に加えて、図書館の中庭だった部分にも近未来的な空間を増設し、その中に効率性を重

視し、書籍の高さに合わせた収納を取り入れています。

インフォメーション・デスクでの案内やウォーキング・ツアーなどの対応等はボランティアを活用し、本の問い合わせをはじめとするそのほかの図書館が実施する業務は、司書(修士取得が必須)による対応になっています。Eメールによる質問だけでも毎日三〇〇件以上、郵便や電話による問い合わせは数えきれないようです。

山梨県教育委員会からの海外活動支援により、図書館訪問に同行した際、地域支援事業担当の元J E T (兵庫県 A L T) のステファニーさんから話を聞く機会を得ました。幼稚園から中学校までの生徒を対象に、司書による教室訪問、生徒たちの学習に合わせたプログラムの提供、教師のためのセミナーなど地域密着型のサービスを図書館が提供しています。日本では、小学校や中学校の図書館に司書が配置されておらず、教師が兼務していることが多いため、多忙な教師が片手間に対応していることから図書館の役割が十分に活かされていないという話も聞かれました。また、ステファニーさんが自信を持って紹介してくれた地図のコレクションは大変貴重で興味深いものばかりでした。



↑地図を説明するステファニーさん

図書館が実施しているフェロシップ・プログラム(毎年、世界中から研究者、作家など一五人が選出され、図書館で一年間創作活動に当たる)に今年度参加している作家ジェフ・タラリーゴ氏 (The American Academy of Arts and Letters Rosenthal Foundation Award 受賞『The Pearl Diver』の著者) から話を伺う機会がありました。タラリーゴ氏は、この図書館について、アメリカでも有数の蔵書の量、それだけでなくコレクションの質の高さ、サッカーフィールドほどもある広い三階の読書室、展示や提供されるプログラムの充実ぶりなど、どれを取ってみても一流で素晴らしいこと、加えて、この図書館でほかの素晴らしいフェロリーと共に一年間働けることに感謝し、フェロリーの一人として誇り高く思っていること、などを語ってくれました。

さらに、市民の憩いの場として親しまれているブライアント・パーク(ファッシュンショー、フィルムフェスティバルなども開催され、いつもチェスや読書を楽しむ人であふれています)が隣接していることも図書館の魅力を一層増していると述べておられました。

ビジネス支援とつとめの 図書館 SIBL

SIBLという略称で知られている Science, Industry, and Business Library は、一般に開放されている科学・ビジネス専門の

情報センターとしては世界最大規模を誇っており、ニューヨーク市でビジネスを展開する上で欠かせない存在になっています。

一階の貸出図書部分では、ビジネス・科学・政府関連の資料も含め四万冊以上の閲覧、貸出を行っており、市内八五カ所すべてのブランチ・ライブラリーの本を借りることも返却することもできます。本の貸出は基本的に無料ですが、延滞料は徴収されています。インターネットを利用できるパソコンが設置されており、無料で利用ができます。

螺旋階段を降りると、UBS社が寄付した金融関連ニュースが流れるスクリーンが多数設置されているコーナーがあり、スピーカーの下に人が移動するとセンサーが感知し、ニュースが流れるシステムになっています。展示スペースは有料で提供されており、六カ月サイクルで企業やNPOが場所を借りてPRしています。ちょうどSIBLを訪れたときは、ロワー・マンハッタン開発のPRが展示中で、一階にもバナー広告が掲示されていました。

図書館利用時間外にはスペースを有料で貸し出ししており、平日は二〇時の開館前の時間を使って、企業ブレイクファースト・ミーティング開催や、休館日のセミナー開催などに利用されています。このようにスペースを貸し出しするなど財源確保も積極的に進めています。

リサーチ図書部分は卓越した蔵書、資料を誇り、一般の利用者から研究者まで多種

多様の幅広い利用者に活用されており、その開放性と利便性は注目に値します。専門文献や特許、メーリングリストの作成、競争相手の把握、仕事探しなど高性能なデータベースの利用、インターネットが利用可能なパソコンを使用することもでき、パソコンを持参して無料でデータのダウンロードも可能です。

ビジネス支援については、ニューヨーク市の中小企業支援のためのブースがあり、コンサルティングや情報提供等を実施しています。加えて、SCORE (The Service Corps of Retired Executives : 退職した企業経営幹部によるボランティア組織) による開業や事業展開に関するコンサルティングなどの中小企業支援、ブルームバーグ・ニューヨーク市長個人から寄付されたモニターによる金融情報の提供、国際貿易投資に関する情報の提供など中心に、さまざまなサービスを提供しています。

また、SIBLから北へ六ブロック行った所にあるミッドマンハッタン・ブランチには、ジョブインフォメーション・センターがあり、来館者は掲示されている雇用情報をチェックするだけでなく、キャリア開発、履歴書の書き方、面接スキルに関する資料の入手やセミナーの受講もできるようになっています。

週三日夜、各専門分野で活躍する実務家を講師に招いてワークショップも開催されており、学習の場であるとともにビジネスとビジネスを結ぶネットワークを求める人々の

集いの場ともなっています。

以上のようなサービスの提供は、広範で多種多様な利用者の支持を得ていて、これらをまとめると次のようなことが分かります。

- ・魅力的な施設づくり
- ・豊富な蔵書・資料
- ・柔軟なスタッフ配置
- ・顧客中心主義サービス
- ・一般利用者向け技術の幅広い提供
- ・オフサイト・ユーザー向けサービス
- ・トレーニング
- ・スモールビジネスコミュニティ向け教育プログラム
- ・パートナーとの連携
- ・政府組織パートナー
- ・ネットワークの場としての図書館

年々、図書館に直接足を運ぶ人が減少していく中で、魅力的な図書館であり続けるため、新しい挑戦を続けているニューヨーク公立図書館は、市民に愛され、数多くの観光客が訪れる観光地の一つでもあります。

魅力的で開放的な施設、豊富な蔵書、利用しやすいシステム、継続的なトレーニングプログラム、実践的なワークショップ、知識豊富で熱意にあふれたスタッフ。ぜひみなさんも訪れてみてください。



↑SIBL館内

海外生活 だより

ニューヨーク事務所

テレビ出演でまさかの 全米デビュー(?)

ニューヨーク事務所長補佐 中園 祥 (堺市派遣)

はじめに

ニューヨーク事務所に赴任してからわずか三カ月、思いもよらない依頼が舞い込みました。

「テレビ番組に出演しませんか？」

どうせエキストラか何かだろうと軽いノリで内容を聞いてみると、ちゃんと役回りがあてられている。しかも放送予定のテレビ局は、ケーブルテレビではありませんが、全米ネットです。「よし、挑戦してみよう」ということで手を挙げました。

放送予定が八月なので、実際どんな風にごれくらいオンエアされるのか現時点では分かりませんが、今回は、このまたとない貴重な体験談をお話ししたいと思います。

出演のきっかけと番組内容

そもそも、なぜこのような依頼があったのかと言うと、制作会社が日本人ビジネスマンを探すために、いくつか日系団体に問い合わせたそうですが、適任者がいなかったようで、その中のジャパンファウンデーション(国際交流基金)、ニューヨーク事務所から協会の紹介を受けたというわけです。

番組名は、『アメリカン・プリンセスII』というリアリティ番組です。



↑共演者の皆さん(控室で)

いざ収録

収録は、五月にニューヨークのマンハッタンにあるルーズベルトホテルで行われました。私は期待と不安を胸に、集合場所のプレジデンシャル・スイートルームへと向かいました。扉が開くと、そこは文字通りゴージャスな間取りとなっており、多くのスタッフが機材とともに忙しく働いていました。制作会社は、収録の間、ここを事務所兼控室として使用していたようです。実はこの時点では、共演者が誰で、自分がどのような演出をすればよいのか知らされていませんでした。あらすじだけは事前に聞いていて、それは美女たちが収録前にイギリス、フランス、日本の基本的なあいさつとテーブ

全米からアメリカン・プリンセスになりたい二人の美女たちがニューヨークに集い、プリンセスとしてふさわしいさまざまな作法や振る舞いを学びます。ここで故ダイアナ妃の元執事、ポール・バレル氏などの審査員たちに好印象を与えた者だけが次のステージ、ロンドンへとコマを進めることができます。ロンドンでは、さらに幾多の特訓を受けて腕を磨き、さらびやかな衣装を身にまとうて大変身を遂げます。そして、本当のアメリカン・プリンセスになれるのは、この中からたった一人。アメリカン・プリンセスには、多額の賞金とイギリスの公式称号が与えられます。

ルマナーのレクチャーを受け、それを本番で
 どれだけ忠実にこなせるかをカメラに収める
 というものでした。私は、おそらく詳しい打
 ち合わせか何かをするだろうと、用意して
 もらったタキシードに着替え、のんきに構え
 ていました。

すると、いきなり出番がやってきました。
 私は、美女たちを除く共演者と共に下の階
 へと移動したのでした。「あれ、打ち合わせ
 は？」と戸惑いながらグラランド・ボールル
 ムのホワイエに着くと、そこにはたくさんの
 カメラ、照明、マイク、スタッフがいて、ま
 さに撮影現場という感じ。緊張感が高まっ
 てきます。「ここで何をやるのだろうか？」
 と周囲をうかがっていると、説明がありま
 した。ここで出迎いの列を作って、美女たち
 を迎えるのだと。「それにしても台本はない
 のか？セリフはあるのか？」と困惑と緊張が
 さらに高まります。聞いてみると、美女が一
 人ずつ入ってくるので、日本語であいさつを
 してくれればいいとのこと。台本なんてあり
 ませんでした。これくらいのことでは必要な
 いし、そもそもリアリティー番組にあるはず
 はないのです。出
 演者のありのま
 まを収録するわ
 けですから。この
 出迎いで美女が
 英語、フランス語、
 日本語でちゃんと
 応答できるか、こ



↑出迎いの列で美女と対面

れが第一関門です。

本番が始まりました。次から次へと美女
 がやってきました。私はここで初めて彼女たち
 と対面しました。さすがに候補だけあつて、
 イブニングドレスがよく似合い、みんな美し
 かったです。さて、日本語のあいさつはとい
 うと、予想していたよりも上手だったと思
 います。とにかく、彼女たちの緊張がこちら
 にも伝わってきて、変な汗が流れました。

次は第二関門、ディナーです。広いグラ
 ンド・ボールルームに円卓が三つ。イギリス、
 フランス、日本のテーブルです。ここでの私
 の役回りは、日本のテーブルに座って、美女
 たちと日本食を食べながら会話をするとい
 うものでした。果たして彼女たちは、うま
 くはしを使って料理を食べることができ
 ますか。私は、彼女たちの手本となつてはいけ
 ないので、まず彼女たちから食べてもら
 うにしてほしいと指示を受けました。カメ
 ラが回り始めて、四人の美女たちが日本のテ
 ーブルに着きます。料理の第一品目は納豆で
 した。彼女たちのゆがんだ表情が今でも思
 い浮かびます。驚いたことに、その中の一人
 はおいしいと言って、普通に食べていました。
 はし使いも中華料理などである程度経験が
 あるのか、なかなかのものでした。

美女たちが入れ替わって、第二品目、う
 ずらの串揚げです。「これは上品にはしで食
 べるのか、それとも普通にかぶりつくのか？」
 と、私もよく分からないまま彼女たちの様
 子を見てみると、みんなはしで苦戦しなが

ら食べていました。なかなか面白かったです。
 もちろんこの間には、いろんな会話が交
 わされています。私としてはどんなことを
 聞かれるか分からないし、答えるまでに時
 間を取れないのでドキドキでした。質問の
 中にはこんなものがありました。「日本食
 て、みんな生なの？」、すしの印象が強い
 か、とんだ勘違いです。ほかには、「次に出
 る最先端の電気製品は何？」、私も知りた
 いです。素直な彼女たちの質問に、私は和
 されました。

これで美女たちとの収録は終わりです。
 あとは、審査員の評価によって、彼女たち
 の運命が決まります。私はこのあと、プレ
 ジデンシャル・スイートルームに戻ってイン
 タビューの別撮りです。誰がよかったとか、
 どの質問に驚いたかなどをカメラの前で即
 興英語です。まさかインタビューまである
 とは予想もしませんでした。

収録を終えて

予想外の英会話にたじろいだ感があった
 もの、このような全く新しいことに踏み込
 むことができ、普段接することのない人た
 ちと言葉を交わせたことは、私にとつて大
 きな財産となりました。また、いろいろな
 質問をされる中で、意外と日本に対して興
 味を持っている人が多いことを知ったので、
 今後も積極的に交流のできる機会を作っ
 ていきたいと考えています。